

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：廣瀬 優佳里 所属：佐賀大学教育学部附属特別支援学校 記録日：2021年2月10日
キーワード：実態把握 コミュニケーション手段の広がり 思いを伝える 生活支援

【対象児の情報】

○学年 小学部3年

○障害名 知的障がい

○障害と困難の内容

- ・発語はないが、ジェスチャーや具体物、身近な道具等を使って、自分の考えや気持ちを伝えようとするができる。
- ・よく見聞きする身近な物の名前を聞き、その絵カードや具体物を取ることができる。
- ・簡単な形の型はめパズルを見ると、試行錯誤して操作しながら、はめこもうとする。 [図1 線を書く本児]
- ・自分と友達のひらがなの名前カードを並べて2択にすると、正しいカードを選ぶことができる。
- ・筆圧は弱いですが、ペン等を握って点と点を結んで10センチほどの短い線を書くことができる[図1]。
- ・よく耳にする言葉については、教師の簡単な言葉かけを理解し行動することができる。



【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ①自分ができる方法で、自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができる。
 - ②周りの協力を得ながら自分でできることを増やす。
- ・実施期間 令和2年5月～3月（実践継続中）
- ・実施者 廣瀬 優佳里
- ・実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・女子児童
- ・何事にも意欲的に取り組もうとする。
- ・記憶力がよい。
- ・周りの様子が気になり集中できずに自分の行動がとまってしまうことがある。



[図2 図工でシール貼りをする本児]

身体面

- ・着替え、食事等の生活動作については、手先の操作が難しく教師の支援を要することがあるが自分で行おうとする姿が見られる。
- ・家庭で母親の携帯を使って、「YouTube」動画を見て過ごすことが好き。携帯画面程度の大きさでも、簡単な機器の操作ができています。
- ・シールを貼ったり、両面テープをはがしたりと小さいものをつまむことができるようになってきた[図2]。

生活面

- ・1日の日課については、クラスのスケジュールや週カレンダー、周囲の様子を見ながら理解し、教師の言葉か

けに応じて、活動を進めることができる。

コミュニケーション面

- ・友達や教師等とジェスチャー等を使ってやりとりすることが好きである。クラスの友達や教師だけでなく、伝えたいことがあるときには、廊下で会った他のクラスの教師等、普段関わりの少ない人にも自分から思いを伝えようとしている。
- ・使用しているジェスチャーは「おしまい」はマカトンサインだが、それ以外のジェスチャーは手話やマカトンサイン等ではなく、本児がこれまでの生活の中でどうにかやりとりをしようとして獲得してきたものが多い。
- ・発語はなく、「あーあー」と発声しながらジェスチャーや指さし等で、自分の思いを伝えようとするが、その意味が伝わりにくいことが多い。
- ・クラスのホワイトボードに提示しているスケジュール[図3]のイラストや、友達のスケジュールをよく見ており、楽しい活動等を指さして伝えようとする[図4]。
- ・疲れているときや自分の要求や思いが伝わらない時にイライラした様子が見られることがある。



[図3 クラスのスケジュール]



[図4 友達のスケジュールを指さして楽しい活動を伝える様子]

○活動の具体的内容

①自分ができる方法で、自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができるために。

①-1 実態把握（4月～現在）

対象児童が現在使っているジェスチャーの種類や、やりとりの方法等の実態を把握するために、学習場面や日常生活の様子をカメラやビデオで撮影したり、メモをしたりしながら記録をした。【カメラ】



カメラ

分からないジェスチャーについては、前担任や保護者に確認しながら記録を進めている。現在も新しいジェスチャーが増えているため、随時記録に残すようにしている。

おねがいます

晴れたね

おしまい

かわいい

もう一回したいです



[図5 本児のジェスチャーの一部]

本児と教師や友達とのやりとりの中で見られたジェスチャーや指さしは[表1]に示す通りである。ジェスチャーや指さして、多くのことを積極的に伝えようとする姿を確認することができた。しかし、この中には「好き」と「私」で同じジェスチャーをしたり、鼻をつまんで「汚れている」と示したりと場面によって同じジェスチャーでも違う意味で伝えようとしていたり、ジェスチャーからすぐにその意味を想像することが難しいものが多かったりするため、なかなか担任以外に伝わらないという実態が見られた。そのため、校内で会う校長先生や教育実習生等に伝えたい思いがいっぱいあるが、うまく伝わらないという場面が多々見られ、本人の伝えたい言葉をジェスチャー等から読み取り、担任が近くで代弁する必要があった。

[表1 本児がジェスチャーや指さして伝えることができる言葉等]

ジェスチャー					指さし
人・キャラクター	物・場所	気持ち	状態・様子	あいさつ	
私 アンパンマン	時計 電話 マスク タオル 着替え トイレ 学校 ぼっぼさん	いきたい 飲みたい (お茶、牛乳) 悲しい 楽しい 元気 かゆい がんばる かわいい すき いや 嫌い もう1回 がんばって うれしい 怖い 何かな? (楽しみだな、 どれにしようかな)	まってください いっしょに 同じ おしっこが出た 汚れている 休憩する 時間 汗をふく 丸 バツ 見る 暑い 食べる オッケー 大きくなっている せきが出る つかれた (ねむい) おなかがすいた おなかいっぱい 少し たくさん 寒い まぶしい 掃除をする	ありがとうございます ください お願いします ごめんなさい さようなら いただきます ごちそうさま おわります はじめます	晴れ, 雨, くもり ドキンちゃん コキンちゃん ばいきんまん ドラえもん 給食 保健室 先生, 校長先生, 友達 おなか, 背中, 足, 手 靴下 アイロンビーズ めり絵 お母さん ブレイルーム そうじ ベグさし スプーン, フォーク, 箸 これ (ここ) 国語, 音楽等の各教科の勉強 休み (土日) リップ ハンカチ, トイレットペーパー せっけん, 牛乳, 仕上げ等

※赤字は本児がよく使用する、ジェスチャーや指さし。 青字は10月以降に増えた言葉。

①-2 獲得語彙の把握 (5月~7月)

次に、これから絵カード等を使ってコミュニケーションの幅を広げていくために、児童が獲得し使うことができる語彙の把握を行った。国語科の学習の中で、画像選択機能が音声再生機能が備わるアプリ【えこみゅ】を使用し、物の名前や表情等のイラスト等を本児がどの程度理解しているか確認を行った。



えこみゅ

【えこみゅ】は、日常生活でよく使用する言葉が場所や道具、飲み物等のカテゴリー別に分類され、イラスト付きのカードとして入っている。それぞれのカードには音声もついており、いろいろな使用の方法が考えられる。今回は、カテゴリーごとに、教師が伝えた言葉を聞き取り、本児がイラストをタップして答える形で使用した。本児が選択できたカードと、選択が難しかったカードの記録をした。道具や食べ物、動物等日常生活の中でよく見聞きする言葉に関しては、適切なカードを選んで答えられるものがほとんどだった。しかし、気持ちを表す「つまらない」「くやしい」「こわい」等や「ひざ」「うで」「指」「舌」等体の部位、「高い」「低い」「長い」「短い」等の状態や「水族館」「動物園」等普段の生活で見聞きすることが少ない言葉に関しては、回答が難しく、分からないためイライラしてしまう様子が見られた。



[図6 えこみゅを使う本児の様子]

「えこみゅ」を使用し、本児の獲得語彙の確認を行うことで、発語はないものの、かなりの言葉を理解していることが分かった。また、今後絵カードでのコミュニケーションが十分可能であると感じた。

①-3 絵カードやVoca機能を使って自分の気持ちや考えを伝える取組。(6月~現在)

自分の気持ちや考えを相手に伝えることができるように、絵カードや音声を使って代替表現できるVocaアプリ等を使用し、相手に伝える場面を設定した。



DropTalk



Our Story2

○帰りの会の「頑張ったこと発表」で今日の学習の中で頑張ったことを自分で選択し、友達に伝える取組。

帰りの会では、毎日「頑張ったこと」を発表する時間がある。そこで、本児が一日の活動を振り返り、自分が選択した頑張ったことを友達に伝えることができるように絵カードの準備を行った。本児は普段からクラスで使用している教室前面に提示しているスケジュールの絵カードのイラストをよく見ていたため、同じイラスト付きの絵カードを準備し、選択できるようにした。帰りの会の前に、振り返りの時間を設定し、一緒に一日の活動を振り返ることで、自分で頑張ったことを選択し、友達にカードを見せて伝えることができた。児童がカードを提示した際に、教師がカードを読み、言葉でも伝えた。さらに、様々な学習場面で自分の気持ちを表現する学習を進める中で、本児が「頑張った」「楽しかった」という気持ちを伝えることができるようになってきたので、帰りの会でも、気持ちを選択して伝えるようにした。以前は、毎日同じ学習内容を頑張ったこととして選択して伝えることも多かったが、その日の活動を思い出し、伝えたい活動と気持ちを自分で選んで伝えることができるようになってきている。活動を1つでなく複数選んで伝える等、工夫をして発表しようとする姿も見られてきている。さらに、絵カードでの振り返りが定着後、アプリ【DropTalk】のVoca機能を使うことで、一人で友達に頑張ったことを伝えることができるようになった【図11】。



【図7 頑張ったこと振り返り用絵カード】



【図8 頑張ったことを思い出して選択する本児】



【図9 頑張ったこと発表の様子】



【図10 頑張ったことを複数選択】



【図11 DropTalkで自分で選択し発表】

○朝の会で今日の体調や今の気持ちを伝える取組。(6月～現在)

次に、朝の会で行っている「健康観察」で自分の体調や気持ちを伝える取組を行ってみることにした。毎日朝の会では、「〇〇さん元気ですか」という日直の言葉かけに、「はい」と返事をして元気に学校に来ていることを友達に伝える活動をしている。そこで、本児だけでなく、クラスみんなで日直の言葉かけに返事をするだけでなく、「元気です」等、その日の体調や気持ちも伝えることができるように取り組んでみることにした。



【図12 体調・気持ち確認カード】

自分の体調や気持ちに気付くことが難しい児童も多いため、絵カードを準備し選択できるようにした【図12】。本児とは、毎日、朝の会前に今日の体調や気持ちを確認する時間を作り、事前に確認をして朝の会で発表する

ようにした。今までは、全員が「はい」と返事をするだけだったが、本児も自分でカードを友達に見せて、今日の体調を伝えることができるようになった。他の児童の様子を見たり、絵カードの選択肢を自分でじっくり見たりしながら、「元気です」の1つの選択肢だけではなく、「ねむいです」や腕を蚊に刺されている日には「かゆい」です等を選んで、みんなの前に立ちしっかり伝えることができるようになってきた。本児が絵カードを友達に見せて指さしをする動作に加え、教師が「腕がかゆいです」等本児の伝えたいことを言葉でも伝えるようにしている。

気持ちカードは本児だけでなく、他の児童もいつでも使うことができるように複数枚教室に準備することで、朝の会での発表場面だけでなく、周りの友達も本児に「今日の体調や気持ちはどれ？」と確認をしてくれたり、本児も友達や教師に自分から「今日はこんな体調や気持ちだよ」と伝えたりする場面が増えてきた。みんなとてもうれしそうに、お互いの体調や気持ちを伝えあうことができている。朝の会での体調や気持ちを伝える場面についても、絵カードでのコミュニケーションに慣れてきたので、現在はアプリ【DropTalk】のVoca機能を使用することで、一人で友達に伝えることができている。



【図13 友達と一緒に体調・気持ちを確認】 【図14 今日は腕がかゆいよ。と指さしやカードで友達に伝える本児】 【図15 DropTalkで伝える】

○Voca機能を使って朝の会・帰りの会等の司会に挑戦する取組。(9月～現在)

週に2回、本児は朝・帰りの会の司会を担当している。司会カードをめくり、本児がカードに書かれた文字を指さし、教師と一緒に読みながら朝の会や帰りの会の司会を行ってきた【図16】。いろいろな場面でiPadを使用し、少しずつiPad操作にも慣れてきたところで、iPadを使って司会を行うことにした。アプリ【DropTalk】や【Ourstory2】のVoca機能を使って、一人で会を進められるように準備を行った。隣に教師がいなくても、一人で会を進めたり、友達に朝の会での役割を伝えたりすることができ、自分が発した言葉に、友達がすぐに反応をしてくれるというやりとりができ、とても満足そうな表情を見せてくれている。友達の準備ができているかを確認してiPadを操作し役割を促す等、友達の様子をよく見て、会を進めることもできている。iPadを使って司会ができた日の帰りの会での頑張ったこと発表では、「朝の会が楽しかったです。」と一人で司会ができたことを楽しかったこととして伝える姿も見られた。



【図16 これまでの司会の様子】



【図17 Our Story を使って会順を提示】



【図18 一人でも自信をもって朝・帰りの会の司会をする本児】



さらに、朝の会や帰りの会での司会の経験を活かして、友達とのおわかれ会の司会、教育実習生への自己紹介、実習生とのおわかれ会の司会、学習発表会でのクラスのナレーター役、クリスマス会のおわりの言葉係、高等

部喫茶での先輩とのやりとり、カレンダー屋さんでのお客様とのやりとり等これまでにいろいろな場面で、iPadを片手に一人でも自信をもっていろいろな役割に挑戦したり、自分の考えを伝えたりすることができている。カレンダー屋さんの学習では、家庭でもiPadをさっと取り出し、「カレンダー屋さんです」「ひとついかがですか」と母親に上手に伝えてくれたとのこと。さらに祖母にも、iPadでカレンダー販売をしていたとのことだった。



【図19 友達のおわかれ会司会】 【図20 自己紹介】 【図21 実習生のおわかれ会で一人で司会に取り組む本見】 【図22 DropTalk手順】



【図23 ハロウィンパーティーでお菓子をもらいに行く本見】

【図24 学習発表会のナレーターに笑顔に取り組む本見】



【図25 喫茶で先輩とやりとりをしたリジュースを注文したりする本見】

【図26 カレンダー屋さんになりお客様とやりとりをする本見】

○日常生活での絵カードを使ったコミュニケーションを広げる取組。(7月～現在)

本見のコミュニケーションに関する実態把握ができてきたところで、本見がよく使用するジェスチャーや指さしの意味を、担任だけではなく、いろいろな人に確実に伝えることができるように、絵カードを作成することにした。iPadでVoca機能を使ったコミュニケーションも検討したが、本見にとってiPadは少し持ち歩くには大きく、操作が難しいため、軽く、すぐに持ち運ぶことができる絵カードでまずは実施してみることにした【図27】。



【図27 本見が使用している絵カード】

本見には相手に伝えたい言葉がたくさんあり、全てを絵カードにして使用するとかなりの数になり、必要な絵カードを見つけるためにも時間がかかると考え、まずは実態把握の際によく本見が使用していた言葉を15個選び1枚のシートにまとめた【図27左写真】。そして、本見がよくやりとりの中で伝えようとする友達や先生、家族、キャラクターをもう1枚のシートにまとめ、2枚のシートから使用してみることにした。さらに、教室

だけでなく、給食の場面でもよく思いを伝えようとする姿が見られたため、給食室に持っていき使用するシートを1枚追加した。

絵カードには、よく本児が使用する言葉が並んでいるため、すぐに使い方を理解し、自分から絵カードをもって教師に近づき伝える姿が見られた。これまでは、ジェスチャーを見て、教師が「〇〇なんだね」と思いを代弁する必要があったが、自分の思いを直接相手に伝えることができうれしそうだった。また、ジェスチャーや指さしだけでは、普段関わっている教師でも本児が伝えたい意味を確実に読み取ることができないこともあるが、絵カードを使うことで確実に伝えることができている。毎日、給食前には、廊下で会う校長先生に伝えたいことがいっぱいあり、どうかジェスチャーで伝えようとするが、なかなかこれまで伝わらなかった。絵カード準備後は、給食室に絵カードを持って出かけ、いつも校長先生に会える場所につくと、自分から絵カードを準備し、一生懸命カードを使って校長先生に自分の思いを伝えている。校長先生も、「お腹すいたんだね。」「給食だね。」「楽しみだね。」と本児の思いを受け止め、たくさん言葉をかけてくださっている。上手く思いを伝えられ、毎日とてもうれしそうに声を出し喜んでいる[図29]。

始めは2～3枚程度を使って「廣瀬先生」「トイレに行きたいです」等伝えることが多かったが、次第に「廣瀬先生」「〇〇さん(友達の名前)」「トイレに行きたいです」「一緒に」「お願いします」とトイレに行きたいことを伝えたり、「〇〇先生」「一緒に」「お茶」「お願いします」と一緒にお茶を飲みましょうと先生を誘ったりと、カードを複数枚使って伝えている。クラスの担任だけでなく、友達や廊下で会った先生方、先輩、時には保護者の方や学校に来られたお客様等、いろいろな方に自分からカードで伝えようとする姿が見られている。



【図28 絵カードをもってきて思いを伝えようとする様子】



【図29 校長先生に思いを伝える様子】



【図30 本児が持ってきた絵カード】

【→図31 DropTalkで
思いを伝えようとする様子】



複数のページから言葉を
選んで伝える本児

②周りの協力を得ながら自分でできることを増やすために。(9月～現在)

9月までに1つ目の実践を主に進めてきたので、9月以降は自分でできることを増やすための実践も進めた。



カメラ

○体育「にんじやになろう(器械運動)」での取り組み。

7月末から始めた体育「器械運動」では、忍者になるために平均台やマット運動等に取り組んだ。対象児童も教師や友達の手本を見ていろいろな運動に意欲的に取り組んだ。マット運動では、当初は横転がりを自分で選び、教師の支援を受けながら取り組んでいたが、「友達のように自分も前転がりにも挑戦をしたい。」という

思いを伝え、教師が少し補助をすることで、前転がりができるようになってきた。連絡帳でもマット運動の様子を伝えた。本人も家庭で自分でマット運動で前転がりができるようになったことを伝えたようだった。そして、家庭でも前転がりをやってみたいことを母親に伝えたとのこと。(次の日の家庭からの連絡帳より)そこで、手の位置や頭の位置を示すシートと、補助の仕方を連絡帳に記入し伝えた。しかし、家庭ではうまくできなかったとのこと。そこで、後日、学校での様子を動画で撮影し、家庭に持ち帰ることにした。補助の仕方が違うことを本人は母親に伝えたとのこと。学校でできるようになったことを家庭でも家族に見せたいという本児の思いを実現する一つの方法として、動画の有効性を感じた。



〔図32 絵カードを使って挑戦したい技を選んで伝える本児〕

〔図33 前転がりに挑戦〕

〔図34 家庭に持ち帰った動画〕

○「歯磨き上手になろう」の取り組み。

家庭より「歯磨きが嫌でなかなか家庭で歯磨きができません」というお話を伺った。そこで、学校での歯磨きの様子を撮影した動画や写真を家庭に持ち帰り、家庭でたくさん褒めていただいた。本児も、自分から歯磨きをしたいことを伝えることができるようになったとのこと。学校に登校すると、口を大きく開け、「今日もおうちで上手に歯磨きしてきたよ」と報告をしてくれる本児。学校でできるようになったことを、動画とともにお伝えすることで、今後も本児ができることが増える可能性を感じた。



〔図35 家庭に持ち帰った動画〕

○対象児の事後の変化

①自分ができする方法で、自分の要求や気持ち等を周りの人に伝えることができる。

本児のコミュニケーション場面の実態把握を行い、絵カードやVoca機能等を使って、自分の要求や気持ちを伝えることができるような場面を設定することで、いろいろな場面で本児が自信をもって自分の思いを表現する姿が増えてきた。

何事にもとてもやる気のある本児。これまでもきっとみんなの前で発表したり、司会の仕事をしたりという役割に「挑戦してみたいな」という気持ちがあっただろう。しかし、発語がない本児は、これまでは司会等の仕事ではない、自分にできる役割に一生懸命取り組んでいた。今年度は、これまで挑戦できなかった司会の仕事や、みんなの前での発表にも、すすんで手を挙げ挑戦し、いろいろなツールを使って自分の思いを伝えようとしている。発表の順番になると急いで前に出てきて発表し、友達や先生に自分の思いが伝わると、とてもうれしそうに声を出し笑う姿もよく見られるようになった。とても満足そうな姿が見られている。

②周りの協力を得ながら自分でできることを増やす。

動画を使って、学校での取り組みの様子を家庭に伝えることで、連絡帳や保護者との話では伝わりにくい様子が明確に伝わり、学校でできるようになったことを家庭でも取り組もうとする姿が見られた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・絵カードや iPad の Voca 機能を活用することで、本児の伝えたい気持ちや言葉を相手に明確に伝えることができるようになってきている。「思いを伝えたい」という本児の願いを叶える一つの方法として有効ではないか。
- ・写真や動画を活用し家庭と連携しながら取組を進めることで、本児のできることが増えていくのではないか。

○エビデンス

取組を進めることで、p.3[表1]に示す通り、本児がジェスチャーや指さして伝えることができる言葉が少しずつ増えてきている。また、これまでは、本児のジェスチャーを身近な大人が読み取り、代弁することが多かった。うまく伝わらないときには、少しイライラした様子が見

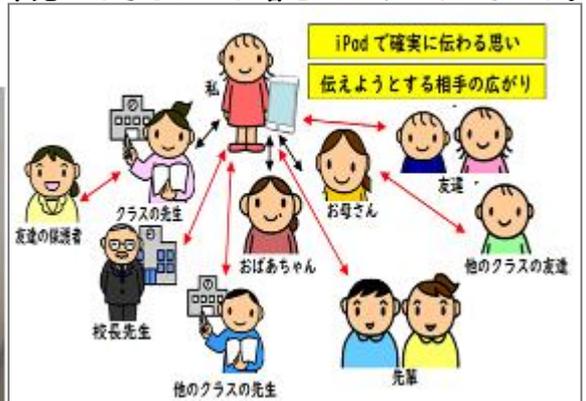


【図 36 思いが伝わり笑顔の本児】

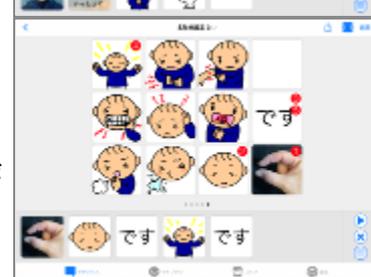
られることもあったが、絵カードや iPad の Voca 機能を活用することで、本児の伝えたい気持ちや言葉が相手に明確に伝わり、うれしそうな笑顔が多く見られた[図 36]。そして、今まで以上により意欲的にやりとりをしようとする姿が見られるようになってきた。本児の意欲の高まりは、[図 37]に示すように、気持ちや言葉を伝えようとする相手の広がりからも感じられる。年度当初はクラスの担任や家族とのやりとり中心だったが、校長先生や他のクラスの先生、他の学部の先生、学校に来られたお客様、保護者等の大人だけでなく、友達、他のクラスの友達、他学部の先輩等、たくさんの人に自分からコミュニケーションを図り、思いを伝えることができてきている。

実践が始まって間もない9月の教育実習では、ジェスチャー等でやりとりをしたい気持ちはあるもののなかなか伝わらず、担任が本児の思いの代弁をする必要があったが、2月の教育実習では、初日より絵カードや iPad を片手に実習生とやりとりをする姿が見られた。9月の実習生からは、なかなか本児のジェスチャー等を理解できないという感想がよく聞かれたが、2月は本児とのやりとりの難しさは感想としてあがっていない。初めて会う相手ともやりとりがスムーズにできるようになっていることが分かった。

学校で絵カードや iPad を使って思いを伝える取組を行うことで、以前からやりとりはもちろんできていた家庭でも【えこみゆ】等で、複数の言葉を使って思いを伝えるようになってきた等やりとりの幅が広がってきている様子を連絡帳等からうかがうことができた。さらに保護者から、「学校で上手にやりとりができるようになっていたので、絵カード等を使って家庭でもやりとりを試みたいと思っています。」と話をいただいた。学校と同じ絵カードを使ってやりとりを始めている。さらに、学校以外で思いを明確に伝える取組につながっている。



【図 37 思いを伝える相手の広がり】



【図 38 やりとりの広がり】

えこみゆで伝えたい言葉を複数回タップ。伝わったことを喜ぶ。

本児がよく使う言葉を使った絵カードで繰り返しやりとり。

えこみゆで複数の言葉で伝えようとするようになる。

iPadで複数のページに、絵カードよりのためのカードを提示しても、自分で必要なカードを選択して伝えようとする。

[図 38]はこれまでの本児のやりとりの広がりの様子を示したものである。年度当初は実態把握に使用した【えこみゅ】で好きな言葉や伝えたい単語を複数回タップし、相手に伝わったことを喜んでいた本児。そして、よく使用する絵カード 15 枚程度を貼ったシート 3 枚でのやりとりにしっかり取り組むことで、現在では【DropTalk】を使用し、5 ページにたくさんの絵カードを提示しているが、各ページから必要な絵カードを選択して、伝えることができるようになっている。

2 つ目のねらい「できることを増やす」についても、学校でできるようになったことを家庭に写真や動画で伝えていくことで、前転がりや歯磨きに学校同様に取り組むことができた。

○今後に向けて

今後もアナログとデジタルのよさを活かし、場面によって絵カードと iPad を使い分けながら使用していきたい。また、マカトンサイン等を参考に、本児が確実に使用できるジェスチャーも増やしていく。さらに、動画や写真等を使って、学校でできたことを家庭でも同様にできるような支援を継続する。ジェスチャー等でよく使用する言葉やコミュニケーションの方法等のデータは来年度に向けてまとめ、担任が変わっても本児が新しい担任と年度当初よりやりとりできるように準備をしていきたい。